

## ◆ その他

《本事業で実施した各事業について成果や課題をまとめたの学会発表等》

### 【実績】

- ・ 第19回北日本看護学会学術集会及び第36回日本看護科学学会学術集会において学会発表を行った。又、日本看護科学学会においては、本事業に関する交流集会を開催した。
- ・ 北日本看護学会においては、平成27年度の1年間に取り組んだ看護研究相談支援の実施状況から得られた実態や課題について取りまとめ1題を、日本看護科学学会では、小規模病院における看護研究の実態調査に関連して2題、小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの実施に関して2題を発表した。
- ・ また、第43回山形県公衆衛生学会においては、本事業の中間成果と課題について1題、リカレント教育の内特にブラッシュアッププログラムに関して2題、ICT活用に関して1題、看護研究相談支援に関して1題の計6題を発表した。

### 【成果】

- ・ 北日本看護学会及び日本看護科学学会においては、発表後、他県における看護研究等の支援が難しい現状や支援を行う教員側から見た課題、そして病院管理者側からの意見等を多く頂き、興味・関心を持ってもらえる内容であったと思われる。
- ・ 日本看護科学学会での本事業に関する交流集会には他大学関係者の方々が67名参加され、「地元ナース」への関心が高まった。
- ・ 山形県公衆衛生学会では、県内の看護職に限らず、医療関係者が広く集まることから、県内における本事業の取組に関心が高まり、「地元ナース」という言葉の認知も上がった。又、県内の様々な分野に携わっている医療関係者から質問や意見・アドバイスを頂いたことは大変貴重で今後この事業を展開していくうえで重要な機会となった。

### 【実施上のポイント】

- ・ 同じような地域性や環境下にある大学の教員や医療機関の教育担当者から興味関心が得られるように、それぞれの取り組みについて研究発表の中で詳細に説明する。
- ・ 事業への興味関心を喚起するとともに、気づかなかった課題を知るために、事業を展開している地域の多職種が参加するような学会において、積極的に事業の取り組みについて発表する。

## 《本事業についてシンポジウムの開催》

### 【実績】

- ・ 山形発・地元ナース養成プログラム中間報告会&シンポジウムを「地元ナースを語ろう！～地元医療福祉を支える看護職～」と題し、6月19日に開催した。当日は午前中に中間報告会、午後からシンポジウムを開催した。中間報告会では全体会での報告の後、2つの分科会に分かれ、リカレント教育と看護研究相談・支援事業の現状について報告した。
- ・ 午後からは「地域包括ケアシステムにおける地元ナースの役割」について4人のシンポジストから報告を頂き、フロアを交えて地元ナースの役割や求められているコンピテンシー等を探った。

### 【成果】

- ・ 当日の参加者は学生を含め約150名であったが、中間報告会&シンポジウムを通じて多くの方々に、本プログラムのこれまでの成果を広く周知することができた。又、地元ナースの役割等について再認識することができた。
- ・ なお、中間報告会&シンポジウムの内容については冊子で取りまとめ、全国の看護系大学、県内の小規模病院等に送付するとともに、その様子や冊子の内容をホームページに掲載し、本事業の発信を行なうことができた。

### 【実施上のポイント】

- ・ 広く参加者を集めるために参加しやすい時期や曜日を設定する。
- ・ 協力病院やリカレント教育（看護ブラッシュアッププログラム）受講生から報告してもらうことで、事業の取り組みがどのように活用されているか、をわかりやすく臨場感を持って伝えることができた。
- ・ 学部学生の授業の一環として学生がシンポジウムに参加したことで、地元医療福祉への興味関心が高まり、地元医療福祉を考える看護職の役割について理解する機会となった。